

巻頭のことば

五十嵐暁郎先生は、一九八〇年に着任されて以来三二年（それ以前の助手としての期間を含めれば三四年）の長きにわたって勤められた立教大学法学部を、二〇一二年三月末日、定年でご退職になりました。

五十嵐先生の専門領域は、日本政治論、日本政治思想史、市民運動論、アジア地域社会論の多岐にわたり、多くの著作・論文によって政治学に斬新な視点を導入されてきました。また立教大学平和・コミュニティ研究機構代表として、学内・学外さらには海外の数多くの研究者とともに学際的な共同研究を組織し、シンポジウム・ワークショップを数多く企画され、現代の政治・経済・社会の問題を市民の立場から再検討する知的な場の形成に尽力されてきました。さらに日本ではめずらしい、アジア地域研究に関する英文のアカデミック・ジャーナル *The Journal of Pacific Asia* 編集長として共同研究の成果を世界に問う試みにも積極的に取り組まれました。五十嵐先生は一九八二年から一九八四年にかけてシカゴ大学にて長期在外研究をおこなわれ、それがきっかけとなって、テツオ・ナジタ教授との交流など、国際的なアジア・日本研究のネットワークで立教大学が重要な拠点の一つとしての役割を果たすことにつながりました。また延世大学での在外研究により韓国の学会との交流関係も強く、アジアの研究者同士の率直で真摯な知的交流を自ら率先して進められてきました。

五十嵐先生の研究の出発点は、明治維新期の開明的な政治家・知識人の研究（この分野での論考はのちに『明治維新の遺産』としてまとめられました）、北一輝など戦前のナショナリズム思想の研究でしたが、やがて現代日本の政治の基礎的な構造を明らかにすることに重点を移され、その一つの成果である『田中角栄、ロンググッドバイ』は、地道な調査にもとづいて地域社会と保守政治との関係を描き出したユニークな政治学研究として高い評価を受けました。このほか地方政治や選挙投票行動の調査・分析を継続しておこなう一方、近年はアジア地域の市民レベ

ルでのさまざまな動向についての調査と、それにとまなうあらたな政治学的枠組みの構築に強い関心をもたれました。平和研究の分野でも重要な業績をあげられています(『東アジア安全保障の新展開』、『平和学講義』など)。そして、現在にいたるまで、国家間外交に限定されない、開かれた地域社会としてのアジアというヴィジョンに基づく様々な研究活動を継続されています。

教育面では、留学生を含む多くの大学院生を指導し、そのうちの何人もが優れた若手研究者として国内外で現在活躍しています。五十嵐先生の守備範囲が広いため、政治家研究や外交政策そしてアジア地域研究まで、多様な関心をもった大学院生がその恩恵を受けました。また学部学生の教育については、長年、日本政治論を担当され、現代日本のさまざまな問題点について、地方や市民の視点から考察する方法を教え、演習ではさまざまな関心をもつ学生にそれぞれ丁寧に対応され、毎年すぐれた演習論文集ができあがるレベルまで、学生を鍛え上げました。学部生への入門的な講義である政治学入門(以前は政治学原理)にも熱意をもって取り組まれ、学部の基礎教育としての政治学はいかにあるべきかのお手本を示されました。そのほか、法学部法学科長、多くの全学の委員など数々の大学運営面での重職につかれましたが、とりわけ国際センター長としては、まだ海外大学との協定などが少なかった時期に、積極的に海外の有力大学との提携を開拓され、今日の立教大学の国際化の基礎を築かれました。

このたび私どもは、五十嵐暁郎先生が退職されるにあたり、ここにその一部を記すことのできました、先生の立教大学および立教大学法学部・法学研究科に対する多大なるご貢献に感謝し、先生が今後ともご健康に留意され、一層ご活躍されることを祈念して、『立教法学』を先生の退職記念号として編ませていただくことに致しました。これからも変わらぬご指導をお願いしつつ、謹んで本書を先生にご献呈申し上げます。

二〇一二年七月

立教法学会会長 佐々木 卓也